

報道機関 各位

# 外国政府関係者が北九州のDX・ロボティクス関連企業を訪問します

## ～「インダストリアルツアーア in Kyushu」の開催～

この度、外国政府関係者を北九州市に招聘し、地元企業等の現地視察を行う企画

### ～インダストリアルツアーア in Kyushu～

を、令和7年11月27日（木）に実施いたします。

本企画を通して、「外国企業と地域企業の協業連携」や「北九州市への外資系企業誘致」の促進を目指します。是非、取材方よろしくお願ひいたします。

■日 時 令和7年11月27日（木）

■主 催 九州経済産業局、九州経済国際化推進機構、

一般社団法人九州経済連合会、九州工業大学、北九州市

■内 容

| 時間              | 訪問先等（所在地）  | 内容   |
|-----------------|--|------|
| 9:30<br>～11:30  | （株）安川電機 ロボット村・みらい館<br>(北九州市八幡西区黒崎城石 2-1)                                       | 施設見学 |
| 13:00<br>～14:30 | （株）ドーワテクノス「TSUNAGU FACTORY」<br>(北九州市八幡西区黒崎城石 3-5)                              | 施設見学 |
| 15:00<br>～16:45 | 国立大学法人九州工業大学<br>(北九州市戸畠区仙水町 1-1)<br>・（株）リヨーワ<br>・KiQ Robotics（株）<br>・（株）TriOrb | プレゼン |

■その他 本ツアーアは経済産業省が取材対応等を行うため、  
取材にあたっては九州産業経済局への事前連絡が必要となります。  
詳細の内容及び取材要領は、九州経済産業局のプレス資料（別紙）を  
ご参照ください。

#### 【問い合わせ先】

産業経済局 国際ビジネス戦略課

担当：川崎（課長）、金元（係長）TEL：093-551-3605

経済産業省 九州経済産業局 国際部経済交流促進課

担当：平川（課長）、中村、篠崎 TEL：092-482-5426

2025年11月20日

## 外国政府関係者が北九州のDX・ロボティクス関連企業を訪問します

～北九州発の最先端ロボット技術を世界に発信！～

九州経済産業局は、外国政府関係者等を招いて「インダストリアルツアーアin Kyushu」を実施します(※)。

本ツアーコを通じて、参加機関に九州の強みやポテンシャルへの理解を深めてもらい、九州への外資系企業誘致や外国企業と地域企業の協業連携促進を目指します。

今年度は、欧州やアジアなど19の国・地域の駐日外国公館、外国政府関係機関、在日外資系企業など計24名が参加。グローバルなものづくり企業が集まる北九州市において、DX・ロボティクス関連のテック企業を訪問し、AI実装による製造現場やサービス課題の解決事例を視察します。また、地域のエコシステムを牽引する九州工業大学にて、大学発スタートアップ等による最新技術のデモを体験し、企業や参加者間のオープン交流の機会を提供します。

外国政府関係者等が国内外から注目を集めている北九州発のDX・ロボティクスの「現在地」を体験する貴重な機会です。ぜひ取材をお願いします。

※今回で4回目の実施。昨年度は宮崎県都城市、鹿児島県霧島市において、食品関連企業を中心に訪問。

**1. 日 時** 2025年11月27日(木曜日)8:00～18:15予定

**2. 場 所** 福岡県北九州市

**3. 主 催** 九州経済産業局、北九州市、九州経済国際化推進機構、一般社団法人九州経済連合会、九州工業大学

**4. 後 援** 日本貿易振興機構 北九州貿易情報センター

**5. 参 加 者** 19の国・地域の駐日外国公館、外国政府等関係機関、在日外資系企業 計24名

プログラム詳細、取材要領は別添1、2をご覧下さい。

(本発表資料のお問合せ先)

国際部経済交流促進課長 平川 担当者:中村、篠崎

電話:092-482-5426

E-mail: bzl-kyushu-keikouka@meti.go.jp

(別添1)

## プログラム詳細

| 番号 | 時間                  | 訪問先等(所在地)  | 内容                             |
|----|---------------------|--|--------------------------------|
|    | 8:00 集合<br>(8:15 発) | 博多駅 集合・出発  | 全行程バス移動                        |
| ①  | 9:30<br>～11:30      | 株式会社安川電機 ロボット村・みらい館<br>(福岡県北九州市八幡西区黒崎城石 2-1)   | 視察                             |
|    | 11:45<br>～12:45     | 昼食   |                                |
| ②  | 13:00<br>～14:30     | 株式会社ドーワテクノス<br>「TSUNAGU FACTORY」<br>(福岡県北九州市八幡西区黒崎城石 3-5)                              | 視察                             |
| ③  | 15:00<br>～16:45     | 国立大学法人九州工業大学<br>(福岡県北九州市戸畠区仙水町 1-1)<br>・株式会社リョーワ<br>・KiQ Robotics 株式会社<br>・株式会社 TriOrb | 左記3社によるプレゼン・北九州市、九州工業大学によるプレゼン |
|    | 18:15<br>(予定)       | 博多駅 到着・解散  |                                |

## 視察先概要

### (1) 株式会社安川電機 ロボット村・みらい館

1915年北九州市において創業。世界の4大産業用ロボットメーカーの一角を占め、欧米・中国等約30ヶ国にビジネス拠点を有する。「モーション制御」や「ロボット技術」等をコア技術として、メカトロニクス分野でのイノベーションを主導。産業用ロボット業界では初となるAIを搭載して自律性をもたせたロボット「MOTOMAN NEXT」を開発・展開。

### (2) 株式会社ドーワテクノス

1948年北九州市で創業。鉄鋼・化学・機械等製造業の様々な課題に対するソリューションを提供。技術商社としての地歩を固めつつ、ロボットを活用したFA(Factory Automation)等のシステム構築でも評価が高く、取引先のメーカーからの「縁の下の力持ち」として信頼を集める。2023年に自社工場として「TSUNAGU FACTORY」を整備し、デジタル技術(DX・GX・ロボット・AI・IoTなど)によって、課題解決への対応力を

高める。また、福岡県内の大学との産学連携、ものづくり技術の継承、デジタル人材の輩出等、地域価値の創造に力を入れている。

### (3) 国立大学法人九州工業大学

1909年北九州市で創立。前身は、安川電機の創業者である安川敬一郎が私財を投じて開校した私立の「明治専門学校」。福岡県内3カ所にキャンパスを有する。大学発ベンチャー企業を55社輩出しており(全国23位にランキング)、全学を上げて研究成果の事業化やスタートアップ支援に取り組んでいる。こうした動きを後押しする一つの取組として、グローバルな人材、アイデア、シーズなどを有機的に結びつける交わりの形成拠点として、「GYMLABO(ジムラボ)」を2022年に開設。

### (4) 株式会社リョーワ

1968年に北九州市で創業。産業機械に使われる油圧装置のメンテナンスで知られてきたが、同装置の市場縮小を見据え、2018年にAIを使った外観検査システム市場に参入。2022年、経済産業省からDXに取り組む中堅・中小企業のモデルケースとなる優良事例に選ばれ、事業変革に成功したDX企業として認知されつつある。同社の外観検査システム「クラヴィ(CLAVI)」はスマホやタブレットによる数量検査、識別作業が可能となり、製造業の検査品質のさらなる向上に貢献。

### (5) KiQ Robotics 株式会社

2019年北九州市で創業。北九州高専・九州工業大学発のスタートアップ。産業用ロボットが様々なモノを掴めるようにする樹脂製の「指」を開発。強度と柔軟性にすぐれ、ロボットのアームの先端に取り付けることで人の手と同じようなピッキング作業が可能になる。トヨタ自動車が部品の搬送工程に採用済み。特許を持つこのロボットの柔軟ハンドとシステム制御の技術を強みとして、作業の自動化を進めるための機器の研究・開発・販売を手掛ける。独自技術であるラティス構造柔軟指で様々な形状のワーク(対象物)のハンドリングを実現。

### (6) 株式会社 TriOrb

2023年北九州市で創業。九州工業大学発・AISol認定スタートアップとして、独自の「球駆動式全方向移動プラットフォーム」を武器に、フレキシブルな生産ラインの実現に挑む。このプラットフォームは、3つの球体と3つのモーターで構成され、360°全方向の移動に加え、段差をスムーズに乗り越え、狭い通路の移動や低い場所への潜り込みも可能。さらに、ミリ単位での高精度な位置決め、最大1,000kgの耐荷重性能を兼ね備えている。こうした特性により、従来の固定ラインでは実現できない、需要変動や製品多様化に柔軟に対応できる生産システムを構築することが可能となる。労働人口の減少やDX推進といった社会的課題に応え、変種変量生産に適した新しいものづくりの基盤を提供することを目指している。

(別添2)

### 取材要領(プレスの皆様へ)

- プログラム詳細の番号欄①②③のみ取材可。
- 全体を通してカメラ撮り可(撮影不可の場所がある場合、現地にてお知らせします)

### ○要事前登録

※取材を希望する場合、11月25日(火)17:00までに、

①社名、②取材者氏名、③連絡先(電話／メール)、④職能(ベン／スチ  
ル／ムービー等)⑤取材希望の番号(プログラム詳細の左の番号)を記載の  
上、タイトルを【取材希望】としていただき、以下までメールにて御登録下さい。

#### ＜登録先＞

国際部 経済交流促進課

担当：中村、篠崎

メール：[bzl-kyushu-keikouka@meti.go.jp](mailto:bzl-kyushu-keikouka@meti.go.jp)

#### ＜注意事項＞

- ・参加者が乗車するバスへの同行はできません。
- ・視察時間の変更等がある場合、メールまたは携帯番号にご連絡いたしますので、記載漏れのないようご注意ください。
- ・視察の都合で時間が前後することがございますので、何卒ご了承ください。
- ・現地にて担当者がお名刺を頂戴いたします。
- ・取材される方は、必ず自社腕章及びIDカード等を両方ご着用ください。
- ・撮影及び取材指定場所以外での撮影及び取材についてはご遠慮願います。